

幸手市立西中学校の取組

幸手市立西中学校では、野口祐人校長のもと、各教科における目標を達成するため、一人一台端末の積極的な活用を推進しています。九月二十九日(水)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介します。

検索活動の充実

現在、インターネット等の普及により、経済・社会・生活のあらゆる場面で情報化が進展し、情報や情報手段を適切に活用できることが求められるようになっていきます。特に、大量の情報から、必要な部分を取り出すことのできる検索機能を、上手に使いこなせる児童生徒の育成を図っていかねばなりません。

一人一台のタブレット端末の導入により、今までパソコン室で行っていたこれらの検索活動が、教室でも容易に行えるようになりました。この日、西中学校でも、美術や外国語といった教科で、生徒による検索活動が行われていました。



プログラミング教材「Scratch」

Scratch(スクラッチ)は、画面上のブロックをつなぎ合わせてプログラムを作る、プログラミング教材です。「十歩動かす」「二秒待つ」といった、画面上にあらかじめ準備されているブロックを組み合わせてプログラムを作り、作ったプログラムによって画面上のキャラクター(初期状態はネコ)を動かします。



この日、西中学校では、三年生の技術・家庭科(技術分野)の授業で、「Scratch」を活用していました。まず、生徒たちは、先生が示すプログラムとキャラクターの動きを確認します。次に、各自のタブレット端末上の「Scratch」で、キャラクターに意図した動きをさせるようなプログラムを作ります。最後に、実際にキャラクターを動かしてみ、課題があった場合は修正していきます。

このような操作演習を、生徒一人一人に実際に行わせることで、「順次」「反復」「分岐」といった三つの基本的な処理について、実感を通して学ばせていました。



幸手市立吉田小学校の取組

幸手市立吉田小学校(城崎克恵校長)は、学級数六、児童数六十四人という小規模の学校です。そのため、九月三十日(木)に幸手市教育委員会が訪問した際、約一時間で全ての学級を参観することができました。どの学級でも一人一台端末を利活用し、様々な活用が見られました。

多様な利活用

一年生の生活科では、ベネッセが提供する「ミライシード」というソフトに搭載されている、「オクリンク」という機能を活用していました。「オクリンク」では、一人一人の考えやアイデアをカードにかき、カード同士を繋げることで、一つのスライドを作成できます。これを共有スペースに投稿することで、全員の考えを閲覧し、比較・分析できます。



写真に写っているもの(テントウムシやツクシ)から、どの季節なのかを根拠をもって推測するという活動を行っていました。児童たちは「ツクシがあるから春だー」などとつばやきながら、自分の考えをカードに表していました。そして、共有されたカードを見合いながら、「○○さんの考えと同じだ。」「そうか、そういう理由もあるのか。」「と更に自分の考えを深めていました。



三年生の外国語活動では、

「TruNote Share」(トゥルーノートシェア)というノート共有アプリを活用していました。これにより、児童全員が一つの画面を共有し、自由に書き込むことができます。児童同士が「好きな色は何か」を聞き合うやりとりを英語でしながら、各自の端末に聞き取った内容を記述していきます。すると、全員の記述内容が瞬時に端末上で確認ができます。「自分と同じでBlueが好き人が多い」と感嘆の声が上がっていました。



便利グッズの整備

一人一台端末を快適に活用していくための便利グッズの整備が、随所に見られました。例えば、一人一つのイヤホンです。端末を全員が利用していると、どうしても周りの音で自分が聞きたい音が聞こえなくなってしまう。そこで、イヤホンを配付して使用することで、学習に集中できる環境を整えていました。



また、収納ケースも便利グッズの一つです。少し大きめのケースにすることで、一人一台端末だけでなく、タブレットペン、イヤホン等の周辺機器も、一括して管理ができていました。

教職員同士で学び合う風土

吉田小学校では、夏季休業中等にICTに係る校内研修を実施するだけでなく、日頃から教職員同士が声を掛け合っており、互いに学び合っている。城崎校長先生が話していました。また、市内の小中学校とも連絡を取り合い、情報を共有し合うなどの取組もされています。

訪問した日も、市内の中学校から数名の先生が来校し、授業におけるICTの活用場面を参観していました。